

# 2018 年 秋期 奈良学園公開文化講座

ガラス張りの天窓があるサンルームと食堂。この部屋に武者小路実篤、小林秀雄、滝井孝作など多くの文人・画家が集い、芸術を語り人生を論じていました。作家志賀直哉が昭和 4 年から 9 年間をすごした旧居での、この集いが人間的な交際の場や文化活動の核となり、「高畑サロン」と呼ばれるようになったのでした。このサロンがあった場所での公開講座です。静かな時間の流れの中で、創造的な時間をお楽しみください。

## 《講座概要》

第 23 回	<b>《志賀直哉と仏像と仏教と》</b> <b>平成 30 年 9 月 29 日 (土) 14:00~16:00</b>	
講 師	大原荘司 奈良学園セミナーハウス志賀直哉旧居館長・奈良学園大学客員教授	
内 容	・日本人には宗教はあるが信仰はない。志賀直哉には信仰はあるが宗教はない。志賀直哉の「座右宝」に載せられた仏像や作品に出てくる仏像などを通して仏像と仏像彫刻、ひるがえって仏教を考える。「話題となる仏像については、自作の彫刻を参考までに展示します。」	
第 24 回	<b>《4k・8k になったら放送文化がどう変わるか》</b> <b>平成 30 年 10 月 6 日 (土) 14:00~16:00</b>	
講 師	門垣一敏 奈良学園大学名誉教授	
内 容	・現行ハイビジョン放送を超える「超高解像度放送」は官民一体となって推し進められ、2018 年 12 月からスーパーハイビジョンの実用放送が始まります。その魅力は、何がどう変わるのか、どのようにして観るのか、4K・8K 推進のためのロードマップなどを参考に放送文化の変化を考えてみましょう。	
第 25 回	<b>《絵本を通してのグリーフケア》</b> <b>平成 30 年 10 月 20 日 (土) 14:00~16:00</b>	
講 師	松田智子 奈良学園大学人間教育学部長・教授	
内 容	・愛する者の死に出会うことは、子どもにとって大きな試練です。子どもが死を理解するのは、年齢や周囲の環境に大きく左右されます。子どもが死と向き合い乗り越えるヒントを絵本の中で見つけませんか。	

第 26 回	<p>《正倉院文書を読み解く》</p> <p>平成 30 年 11 月 17 日 (土) 14:00~16:00</p>
講 師	桑原祐子 奈良学園大学人間教育学部教授
内 容	<p>・ 錦秋の奈良を彩る正倉院展が今年も開催されます。戦後まもなく始まった正倉院展は、今年で 70 回目を迎えます。天平文化を代表する華麗な宝物とともに、少し地味ですが文書も必ず出陳されます。これらの文書は、1300 年前に生きた人々の息吹が実感できる希少な宝物なのです。今年出陳される文書を取りあげて読み解いてみます。古代の人々の生活の一端を垣間見ることができるのではないのでしょうか。</p> 
第 27 回	<p>《三島由紀夫と西郷隆盛》</p> <p>平成 30 年 12 月 8 日 (土) 14:00~16:00</p>
講 師	渡邊規矩郎 桃山学院教育大学客員教授・日本教育新聞社顧問
内 容	<p>・ 三島由紀夫は老醜を極度に嫌い、その限度を城山の西郷隆盛 (享年 51 歳) と思っていた。三島は西郷について多くを語ってはいないが、若者に慕われ、担がれて事を起こし、倒れていった西郷を羨望していた。三島の死から 50 年近くになり、文学好きな大学生以外は三島を知らない。大神神社境内には、三島が三輪山に登拝した時に揮毫した「清明」の碑がひっそりと立つ。この碑の文字を眺めながら、共に「若きサムライ」だった往時を回顧してみようと考えた。</p> 

- 定員 : 各回 30 名 (各回,先着順) ※定員になり次第、申込を締め切ります。
- 参加費 : 各回 350 円 (入館料込,学校法人奈良学園設置校の在籍者本人及び教職員は無料です)
- 開催場所 : 志賀直哉旧居 (奈良学園セミナーハウス)  
奈良市高畑町 1237-2 TEL 0742-26-6490
- 参加申込 : 参加ご希望の方は、志賀直哉旧居までお問い合わせください。



Google Map



JR 奈良駅、近鉄奈良駅下車、(市内循環) 奈良交通バス  
約 10 分「破石町」バス停下車 東へ約 350m、北へ約 50m

